

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 6 月 2 日

【事業所概要【事業所記入】】

| | | | |
|---------|------------------|--------------|-----------------|
| 事業所番号 | 33491500249 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 まり福祉会 | | |
| 事業所名 | まりホーム 内海 | | |
| 所在地 | 福山市内海町イ2678 | | |
| | 電話番号 | 084-986-2255 | |
| 自己評価作成日 | 令和 4 年 10 月 22 日 | 評価結果市町村受理日 | 令和 5 年 6 月 12 日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 一般社団法人 みらい | | |
| 所在地 | 広島県福山市山手町1020番地3 | | |
| 訪問調査日 | 令和 5 年 5 月 19 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

湾曲した形状が特徴の内海大橋をわたった田島の静かな海沿いにあり、四季折々に表情を変える瀬戸内海の眺めは絶景で、心を癒される風光明媚な環境にあります。地域の方々との触れ合いを大切にし、馴染みの関係を築きながら穏やかな生活環境を提供しています。食事は、管理栄養士により、高齢者の方も喜んで食べて頂ける献立で、手作り料理です。入居者の皆様の個々に合った食べやすい食事形態で提供しています。作業療法士や歯科医師等の専門職の連携の下、安心できるケアの充実が図られています。コロナ禍で全体参加は難しい状況がありましたが、毎月の法人勉強会は各自資料などで学習して介護職員としてのスキルを高めています。ケアサービス評価表にて評価した事を職員間で情報共有し、サービスの質の向上に活かしています。入居者の皆様が安心して穏やかに暮らせる明るい家庭的なホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

内海大橋を渡り、海沿いの少し小高い民家の立ち並ぶ自然豊かな場所にあり、リビングやウッドデッキから、穏やかな瀬戸内海を見る事ができると共に周りの自然から、季節の移り変わりを感じる事もできるという恵まれた環境の中で安心して過ごされている。又、地域の一員として理解が得られ、自治会長や近隣の方との連携が構築され、コロナ禍ではあるが、常に声かけがあると共に事業所の周りの草取りやお花の手入れ等して頂いている。気軽に何でも相談できる関係ができていて、地域と両輪で利用者を支えられている。ケアに関しても利用者や家族に喜んでもらえる心のこもった支援に努めると言う事を全職員が共有し実践されている。会話を多く持ち、思いを汲み取り、自分らしく生きがいを持って過して頂く様取り組まれている。特に医療面に関しては主治医をはじめ、理学、作業療法士、薬剤師、歯科衛生士、訪問看護師等、あらゆる専門職の方が定期的に訪問され、体調管理や機能維持の指導等もされ、常に適切な医療が受けられる体制が整っている。又、食も大事にされ、管理栄養士の指導も入り、一人ひとりの栄養面に関する管理もされている。すべてに置いて、心のこもった支援をされている。職員も明るく、家庭的で安心できる事業所である。

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎月のミーティング時に理念や方針を掲げて唱和し、職員一人ひとりが日々のケアが理念に沿って行われるよう、又、行われているか振り返り意識を持ち取り組んである。 | ミーティングで唱和し、再認識しながら、反省や振り返る機会としている。理念にある心のもった支援を全職員が共有し、日々実践されている。又誰もが見え易い玄関や事務所に掲示されている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍で地域行事もなく参加できないが、ホームの草刈りや花壇の手入れ等して下さる。散歩等の途中で声かけをして下さる。 | コロナ禍の為、行事も中止となり、交流は以前のようにできないが、清掃活動には参加している。散歩時には声かけてもらったり、また、事業所の周りの草刈りやお花の手入れをして下さったり、お花を頂く事もあり、少しづつではあるが地域との交流が途切れない様務めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議に地域包括支援センター、福山市社会福祉協議会、福山市警察署、公民館、民生委員、地域住民の方、郵便局の方、入居者家族の方と一緒に情報交換している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ホームでの行事、取り組み等月々の状況報告し、参加者からも、行事等の報告をして頂き、ご理解と協力やアドバイスを頂き、サービスの質の向上に活かしている。 | コロナ感染者が減少時に開催し、家族、自治会長、田島駐在所、包括支援センター等の下、現状や取り組み、利用状況等について報告し、それぞれの立場からの意見や要望が得られ、サービス向上に活かしている。コロナで中止の場合には口頭や書面にて報告されている | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 保健福祉担当者の方や、地域包括支援センター主催の地域ケア会議等に参加し意見を聞き取り組んでいます。ケースによっては法人の局長が行政担当者に関わる場合もある。 | 行政担当者に困難事例や疑問点等があれば、電話や出向き相談し、その際、現状や取り組み等も伝え、理解してもらおうと共にアドバイスや情報等得られ、協力関係を築くよう努めている。包括支援センターとの連携も築かれている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 勉強会、ミーティングでは話し合い、知識を深め、みんなが共通の認識の下で取り組んでいる。3グループ会議ではホームでの状況を報告し合って、身体拘束ガイドラインを基に取り組んでいる。 | 基本身体拘束はしない方針である。リスクに対しては定期的に状況を検査し、制止や抑圧しない支援に努め、見守り強化で対応していく方針である。資料を基に研修も行い、具体的な行為について正しく理解されている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会やミーティング、朝の朝礼時に3グループホーム会議で話し合い、職員一人ひとりが意識を持って虐待防止や予防に取り組んでいる | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 全職員が共通認識が持てるように個々に必要な制度の関係者の方々と情報交換を行い、必要な制度の活用について支援を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分に説明を行った上で、お互いに納得して頂ける様、又、不安や疑問点については、理解頂ける様、説明し、同意を頂き手続きを行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 相談や苦情について遠慮なく言ってもらえる様説明し、理解を得ている。玄関にもご意見箱を設置し自由に意見をもらえる様にしている。 | コロナ禍の為、家族の訪問も制限があるが予約してもらい窓越しでお会いしてもらっている。その際、現状について報告する中で意見や要望の把握に努めている。又、毎月、日頃の生活状況をホーム便りと共に書面にて報告する際にも聞く様にし、出された意見等は反映させている。家族から絵手紙も届く。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月1回ユニットミーティングや部門ミーティング、ホーム内勉強会を開催し、問題点や課題等ある時はその都度話し合いの場を設けて検討するようにしている。 | ミーティングの中で聞く機会を持つと共に日頃気付きがあればその際聞く様にしている共に申し送りノートに記入される職員もいる。案件によっては再度ミーティングで検討し反映させている。声かけでその都度面談し、意見や提案を聞く様にもしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年間行事、目標を立て、自己評価を行い一定期間で上司がヒヤリングを行っている。その評価を基に職員が向上心を持ち働く意欲向上へ繋がるように努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 勉強会等で情報を提供し積極的に参加するように取り組んでいる。内部勉強会は計画を立て行い、法人内、病院全体の勉強会も月1回から2回開催されている。参加できない場合は、書面や伝達講習にて知識や技術の共有をしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域の関係機関もケア会議に参加したり他の施設との交流を通してサービスの質の向上に取り組んでいる。同業者との勉強会の実施も行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 日々の生活を注視し、困りごとや不安そうな事を見つける努力と要望に傾聴する事は努めているが表情できない要望に応える努力は必要だと思う。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の方の意向等を傾聴する努力はしているが返答について言葉遣いや対面の時の表情等工夫が必要だと思う。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初期対応の見極めについては、ケアマネジャー、リーダー等皆で相談、検討して対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人ができる事等を、コミュニケーションを取りながら協力して頂き、一緒に行っている。役割を担う事で、支え合える関係を構築している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の方には安心して頂ける様、誠実な対応を心掛け、心の距離が近くなる様細やかな接し方を心掛けて、本人との関係性を大切にしながら、協力して頂いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍であり、難しい時もありますが、可能な限り対応に努めている。 | 家族の訪問制限があるが、予約をしてもらい窓越しでお会いしてもらい、できるだけ柔軟に家族と会える機会を作り、家族の不安解消と絆が途切れない様務めている。又、希望でドライブに出かけ馴染み場所を回る事もある。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | レクレーション等を通して親睦を深める様心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後もご家族の方と今までの関係を大切にし、介護の相談等があれば丁寧に相談に応じている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者との会話の中で個別の意向を把握して、散歩やドライブ等に出かけたり、職員同士で情報交換して希望に沿える様に努めている。 | 日々の会話の中や利用者同士の何気ない会話などから把握する事がある。食べ物や帰宅願望、散歩等の思いが出る。又、お茶を立てたい、おやつ作りがしたい等、過去にやっていたこと等の希望も出る。できるだけ個々の思いに沿えるよう努めている。困難な方には生活歴から選択史を出し、表情などから検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の過ごし方や生活歴や交友関係及び、本人や家族の方とコミュニケーションを取りながら意向を確認して、ケアサービスに反映させている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一日の過ごし方や季節や環境等によって変わられる。職員間で申し送り時やミーティングで検討し、心身状態について情報共有して本人が過ごし易い様に支援している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人と家族の方の意向を確認して、どのような課題があり、ケアが適切かという事を多職種専門の方と報告、連絡、相談し、介護計画を作成している。 | 家族や本人の希望、主治医の所見、各専門職(理学、作業療法士、薬剤師、訪問看護師、栄養士)の意見、また、日々の状況からニーズや課題についての職員の意見等を基に担当者会議で検討し作成している。モニタリングは毎月見直しは半年となっている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 経過記録やケアサービスを職員全体で情報し再検討、アセスメントを行い、定期的にプラン更新に努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 多職種と連携を図り、情報交換を行い支援している。看護師や作業療法士等に協力依頼して、助言して頂き、サービス提供をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | yuukann ni 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ボランティアお近所の方等、様々な方のご協力を頂きながら、地域行事に参加、又、ホームの行事にも参加して頂いているが、今はコロナ禍ですべての行事が中止である。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医療機関の訪問診療、受診の支援を行っている。本人の希望を大切に家族とも情報交換を行い理解の上で適切な受診が受けられる様に支援し、情報や受診結果等都度ご家族の方に報告させて頂いている。 | 協力医療機関の往診が月2回、訪問看護が週1回、歯科は依頼により訪問診療ができる。理学、作業療法士の機能訓練や薬剤師の薬の説明等あらゆる面で適切な受診が受けられる体制が整っている。他科受診も通院支援されている。又、機能訓練の指導もその都度職員にされ日々実施している。医療面は安心である。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護と24時間連携体制で対応し1週間に1度は定期的に訪問してもらい些細な事も相談や情報交換が行えている。必要に応じてアドバイスの下受診を行い支援させていただいている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には入居者の方の状態についての報告をし看護師等に相談し状況把握している。又、退院後もすぐにケアがしっかりと行えるように他職種で連携を取り、支援し、退院後の経過も含め安心した生活が送れるよう、症状の経過の情報交換を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に本人や家族の方に看取りについての説明をし、医師や訪問看護、地域支援者の方々と検討し、ご理解頂いた上で支援を行っている。又、看取りの勉強会にてスタッフもできるだけ心に寄り添った支援ができるように取り組んでいる。 | 利用開始時、終末期に対する指針を基に説明され、理解は得られている。変化が起きた場合には、主治医、訪問看護師、家族等4者で再三にわたり話し合い、その都度家族の意向の確認を行い、方針を共有し、看取り計画を作成し、家族の協力を得、チームで支援に取り組まれている。看取りの勉強会も行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 協力医療機関の看護師を講師に迎え「急変時の対応」等の勉強会を開催し、AED講習を定期的に行い職員全員が対応できるように職員全員が実践を通して学ぶ機会を設けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署、地域初期支援者の協力を頂き年2回消防訓練を実施している。又、地震時や水害、夜間、昼間等様々な災害等の訓練も地域の方々にも参加して頂き協力体制の下行っているが今はコロナ禍で地域の方は不参加である。 | 年2回、訓練計画を作成し、通報、消火、避難誘導等の訓練を実施し、速やかに対応できる様個々の実践力を身につける様取り組まれている。実施前には近隣や自治会長等に報告している。コロナ禍の為地域の方の参加はないが協力体制は築かれている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 相手の立場に立ち、心のもった声かけができる様心掛けている。又、個人情報についても取り扱いに注意している。 | 人生の先輩であり、目上の人という事を常に念頭に置き、尊重した声かけや対応をするよう、周知している。馴れ合いになっても節度ある言葉かけをするよう努め、職員間で気付いた時には注意し合い、不快にならない言動を心掛けている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者の方一人ひとりに応じた声かけや問いかけを行い出来ることを提案し行動して頂ける様に行っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 無理強い介護にならない様に本人のペースに合わせて穏やかに笑顔で過ごして頂ける様支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 起床時には、衣類、髪も毛を整え月1回の散髪は声かけをして変化していくところを楽しんで頂いている。季節に合った衣類選びを一緒に行っている。散髪はコロナ禍で状況に応じて実施している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 音楽を流して職員もテーブルについて入居者の方と献立を使用している。食材などの会話をしながら食事をしている。入居者の方にテーブル拭きや片づけなど手伝って頂きながら一緒に行っている。 | 管理栄養士による献立で、カロリー計算や栄養バランスにも配慮された食事を提供されている。個々の身体状況に合わせ、キザミ、トロミ、ミキサー等の形態で、食材の話や雑談をしながら楽しみの時間となっている。下ごしらえや後片づけなど、出来る方にはお願いし、力量発揮の場面作りをしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりに合った食事形態を提供している。また、ミキサー食やトロミ剤を使用して完食して頂けるよう工夫している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一人ひとりに合った口腔ケアを毎食後行っている。歯ブラシ、口腔内ティッシュ、マウスウォッシュ等を使用し、口腔ケアの支援を行っている。問題が生じた際は歯科衛生士の訪問時、相談、アドバイスを頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 入居者様一人ひとりの排泄パターンや習慣を大切にしながら声かけや誘導により排せつの介助や排泄の自立に向けた支援を行っている | 個々の時間帯で声かけし、トイレでの排泄に努め、座位、立位をする事で機能維持に繋げると共に生活習慣を活かした支援を心掛けている。又、気持ちよく排泄してもらえるよう努めている。自立の方や布パンツの方もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日の運動や個々に応じた、食事、水分に気を付け、自然排便を促す努力をし、排便が滞る場合は主治医に相談している。又、PTによるリハビリ体操の実施で腸の動きを良くするといった取り組みもしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 週2～3回、個々に入浴の声かけをして希望を伺っている。そこに日の体調や気分を配慮し対応している。状況によっては清拭に変更し清潔保持に努めている。 | 週2回、順番や湯温等の希望にも対応し、無理強いせず入浴が楽しみとなる支援を心掛けている。皮膚の弱い方には石鹸等の配慮もしている。拒否の方には声かけの工夫やタイミングを見ながら、清潔保持に努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの生活習慣や体調を把握し個々のペースで休んでいただいている。又生活が車椅子主体の方は長時間の座位にならない様時間を決めて横になり休んでいただいている。室温湿度に配慮し安心して気持ちよく良眠できるように支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 医師、薬剤師～効能、用法の説明を受け理解し症状の変化や状態を報告している。服薬時には声出し確認をして手渡し、あるいは職員が口に入れて差し上げるのを確認している。症状に変化があった場合は訪問看護に連絡し指示を受け、常に早期発見、対応に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 花を生けたり、歌を唄ったりと楽しんで参加できる催しを工夫している。又家事の役割を担う事により張り合いや喜びを見いだして頂ける様洗濯ものを干したり畳んだりといった作業を一緒に行い、感謝の言葉を伝えている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 希望に応じ、買い物や散歩にお連れしたり、ドライブにお誘いしたりと外出を楽しんでいただいている。時には家族の方や地域の方々の協力を得て、行事への参加もして頂いている。 | コロナ感染予防の為、以前の様に外出支援はできないが、希望でドライブや散歩等に出かけたり、近くのフクロウの里へ芝桜を見に行かれ、季節感と気晴らし、五感刺激となる支援に努められている。室内行事(ゲーム、塗り絵、フラワーアレンジメント等)を多く企画し楽しみごとと、笑顔になってもらえる支援に取り組まれている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己管理が可能と判断できれば本人やご家族のかた理解頂く為、文面にて同意を得ている。その他の方々は預かりとして預かり、希望時に取り扱うご家族面会時には随時使用用途状況を確認して頂き出納長にサインをお願いしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望があるときは相手先に十分確認を取った上で連絡等を頂けるよう職員が代わりに連絡したり、会話の端々を伝えるお手伝いをさせていただく事もある。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有の空間は明るく保ち、不快な音や臭気等ない環境を提供している。季節の生花を生けたり、季節に合った飾りを飾ったりして季節感を感じて頂いている。 | 玄関には季節のお花が生けられ、理念が掲げられている。共有の場には畳スペースやソファも置かれ好きな場所で過ごす事ができる。また、ウッドデッキから穏やかな海や周りの自然が見られ季節が感じられる。壁には作成されたぬり絵や行事の写真等が飾られている。また、オルガンもある。不快な匂いや死角もなく快適に過ごせる共有の場である。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールにはテレビやソファ、畳の間があり、ペランダや玄関脇には椅子を並べたりベンチを置いて、思い思いに過ごして頂けるよう工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人が使い慣れた家具や机など持ち込んで頂き壁には家族の写真や好みの絵を飾り心地良く落ちつける空間を心掛けている。 | テレビ、収納ケース、三段ボックス、また、趣味のお茶道具等、馴染みの物を持ち込まれ、自宅に近い環境づくりをされ、違和感なく過ごされている。家族との思い出の写真や自作の作品も飾られている。カレンダーや時計も置かれ、時の認識に繋げている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホーム内はバリアフリーになっていて、トイレ、浴室廊下には手すりを設けている。各居室前には表札を掲げ、それぞれの居室をわかりやすく、安全に自立した生活が送れる様に工夫している。 | | |

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

| 項目 | | 取り組みの成果(該当するものに○印) | | 項目 | | 取り組みの成果(該当するものに○印) | |
|----|---------------------------------------|--------------------|--------------|----|---|--------------------|--------------|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ | ①ほぼすべての利用者の | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼすべての家族と |
| | | | ②利用者の2/3くらい | | | | ②家族の2/3くらい |
| | | | ③利用者の1/3くらい | | | | ③家族の1/3くらい |
| | | | ④ほとんど掴んでいない | | | | ④ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ○ | ①ほぼ毎日のように |
| | | | ②数日に一度程度ある | | | | ②数日に1回 |
| | | | ③たまにある | | | | ③たまに |
| | | | ④ほとんどない | | | | ④ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼすべての利用者が | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | ①大いに増えている |
| | | | ②利用者の2/3くらいが | | | | ②少しずつ増えている |
| | | | ③利用者の1/3くらいが | | | | ③あまり増えていない |
| | | | ④ほとんどない | | | | ④全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている | ○ | ①ほぼすべての利用者が | 66 | 職員は生き活きと働けている | ○ | ①ほぼ全ての職員が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが | | | | ②職員の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが | | | | ③職員の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどない | | | | ④ほとんどない |
| 60 | 利用者は戸外の行きたい所へでかけている | ○ | ①ほぼすべての利用者が | 67 | 職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが | | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが | | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどない | | | | ④ほとんどない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ○ | ①ほぼすべての利用者が | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが | | | | ②家族等の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが | | | | ③家族等の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどない | | | | ④ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている | ○ | ①ほぼすべての利用者が | | | | |
| | | | ②利用者の2/3くらいが | | | | |
| | | | ③利用者の1/3くらいが | | | | |
| | | | ④ほとんどない | | | | |

(別紙4(2))

事業所名: グループホームまりホーム内海

目標達成計画

作成日: 令和 5 年 6 月 12 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|---|---|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | | 馴染みの人や場の関係継続の支援がコロナ禍できていないので少しでも改善していくことが課題である。 | コロナの状況を踏まえて行きながら、感染などに留意して家族や地域の方々との交流を行い、心のケアを大切にしていきたい。 | コロナ禍でここ数年、家族会の取り組みができていないので、感染状況を踏まえた上で実施していく。又、馴染みの場所へドライブや地域の方々との交流を大切に実施。 | 半年から1年 |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。